

Bryan Porter 教授講演会のご案内

2020年1月11日
国際交流委員会

会員宛てメールにてお知らせしましたとおり、Bryan Porter 教授（国際応用心理学会交通部門次期会長）による講演会を開催いたします。

すでに学会員から参加希望のご連絡をいただいておりますが、他にも参加を希望される方がいらっしゃいましたら、若干名の参加を受け付けます。会場の都合等があるため、参加希望者は、必ず事前にご連絡をお願いします。

記

1. 講演会の名称

高齢者の交通安全確保対策の日米比較－自立とモビリティの確保、文化差を踏まえ－

2. 開催趣旨及び開催形態

Bryan Porter 教授（米国 Old Dominion 大学）に高齢者の安全とモビリティについて講演いただくとともに、高齢者を含む交通参加者の行動と安全対策について参加者と討議を行い、相互の交流を図ります。公益財団法人 国際交通安全学会との共同開催とします。

3. 開催日時

2020年2月14日（金） 16時～18時（18:30から懇親会を実施）

4. 開催場所

東京都中央区八重洲二丁目6番20号 ホンダ八重洲ビル内
（東京駅八重洲南口より徒歩5分）

5. 参加費

講演会は無料、懇親会費用は参加者に別途通知します。

6. 講演者の紹介

Porter 教授は、元々実験心理学が専門であり、防災あるいは向環境行動促進手法などの研究の他、交通安全の研究を行っている。運転者の行動研究（危険運転や攻撃的運転、運転者の歩行者への譲り行動、シートベルト及びチャイルドシート使用等）及び行動変容のための方法（フィールド研究、行動介入の実施と評価、教育実践）を、政府や地域組織と連携して行っている。

7. 講演要旨

心身機能が低下する高齢者にとって、交通安全の観点に加え、自立とモビリティ確保の観点から、運転や歩行中の安全確保には懸念すべき要素が多々存在する。米国では、車両衝突は、意図しない傷害による死亡原因の上位を占めることから、高齢者の交通安全を公衆衛生の観点から捉える必要がある。一方、関連する統計資料は、米国よりも高齢化の進展が著しい日本と米国の間に顕著な差があることを示している。この背景にある交通安全対策あるいは文化差を踏まえつつ、高齢者の交通安全について考察する。

8. 問い合わせ先

講演会・懇親会所についての詳細は、参加者が確定次第、別途お知らせします。
参加希望その他のお問合せは、jatp-int@list.waseda.ac.jp 宛てにお願いします。

以上